

9/24 千歳市空港開港 100 年記念学習まんが 「千歳市のひみつ」 寄贈



市は千歳市空港開港 100 年記念事業の一環で、こどもたち向けに空港の歴史などをわかりやすく伝えるための学習まんがを制作し、市内の全小学生に配布。千歳小学校では寄贈式が行われ、横田市長は「まちの歴史や当時の住民の思いを次の時代へつなげていきたい。ぜひ、まんがを読んでまちのことや空港のことがってほしい」とあいさつ。児童を代表する加藤 愛菜さん(千歳小6年)は「空港の歴史やたくさんの方の思いを学び、これからの千歳市の未来について考えるきっかけにしたい」と話しました。



10-1 現在の人口
《総人口》
97,039人 (-37)
男性 49,338人 (-16)
女性 47,701人 (-21)
《世帯》52,758世帯 (+2)
()内は、前月との比較です。

広報ちとせからのお知らせ
広報ちとせの発行日は毎月10日です。この日までに届かないときは、次の番号にご連絡ください。
広報広聴課 広報係
☎(24)0104 FAX(22)8851



9/20

泉沢小学校PTAによる地域交流イベント「泉ザ・ワールド」

「地域の方々とつながろう」をテーマに泉沢小学校PTAが主催するイベント「泉ザ・ワールド」が同校で開催され、児童141人やその保護者、地域住民などが参加しました。校区内の町内会や児童館が教室やホールにブースを設け、ダーツや風船アート、空き缶釣りなど工夫を凝らした催しで来場者を楽しませました。付近の空き地にはキッチンカーや出店が集まり、来場者はグルメを堪能。千歳航空少年団の指導で行われたドローン体験会では、ドローンがプログラミングどおりに飛行すると、会場から歓声が上がりました。参加した横山 凜帆さん(泉沢小1年)は、ダーツが楽しかったと振り返り、「景品のお宝がもらえてうれしかった。(開催が)来年もあったら、くじ引きに挑戦して1等を当てたい」と眼を輝かせていました。



8/29 千歳市かわまちづくり計画 国の支援制度に登録



市は6月、河川空間を活かして地域の賑わい創出をめざす「千歳市かわまちづくり計画」をつくりました。同計画は、関係団体や市民で構成する「千歳市かわまちづくり検討会」での議論などを経て策定。水辺空間の整備だけでなく、道の駅サモンパーク千歳やグリーンバルトなど、地域一体となった取り組みが評価され、国土交通省の「かわまちづくり支援制度」に登録されました。これにより、同計画にもとづくソフト事業や施設整備が進められます。8月29日に行われた登録証伝達式で千歳市かわまちづくり検討会の堀野 良和会長は、「皆さまの声と知恵が結実した成果」と喜びを語りました。

9/12 千歳スクエアガーデンの花壇整備 花材を再利用した園芸療法



千歳スクエアの会は、千歳駅前のスクエアガーデンで花植えや除草などを定期的に行っています。千歳駅前をより良くしたいという思いで参加した館入 未羽さん(日本航空大学校北海道校2年生)は「植えられている花の意味などを知ることができた。もっと多くの人に広げていけたら」と話しました。午後からは園芸療法を通じ、市民の健康づくりやストレス軽減に取り組む「しろつめくさ」が駅前の花壇の花材を再利用したスワッグと押し花作りのワークショップを開催。自家製のフローラルウォーターなども振る舞われ、参加者は和やかな雰囲気の中で制作を楽しみました。奥山 貴康さんは「日常生活では馴染みのないことができるので癒やされる。仕事を忘れられる」と晴れやかな表情で話しました。

8/28 千歳市・指宿市青少年相互交流事業 児童16人が研究成果を発表



市教育委員会は、千歳市・指宿市青少年相互交流事業の事後研修会を北ガス文化ホールで開催。児童16人が8月に訪問した指宿市での経験をもとに食、方言、特産品などのテーマを選び、研究成果を発表しました。祝梅小6年の浅野 由梨さんは、「千歳市と指宿市の学校生活の違い」を研究テーマに選出。日照時間の差による下校時間の違いや、指宿市の小学校には食後の歯みがき時間があることなどを紹介すると、会場から驚きの声が上がりました。発表を終えて浅野さんは、「毎日通う学校なので、違いは理解してもらえたと思う」と手応えを話し、12月に指宿市から児童が訪問するときは、「ホームステイに来る子と一緒にスキーをしたい」と話していました。

9/2 北海道コンサドーレ札幌 荒野拓馬選手 J1昇格に向け決意表明



北海道コンサドーレ札幌の荒野 拓馬選手からクラブ関係者が北 市役所を訪れ、ホームゲーム招待企画の説明とJ1昇格に向けた決意を表明しました。クラブは10月4日に大和ハウスプレミストドームで行われた試合に、札幌近郊12市町村のファンを無料招待。荒野選手は今シーズンを「コンサドーレらしい攻撃的なサッカーを表現できなかった。個人としても途中出場が多く、長い時間ピッチに立つことが出来なかった」と振り返りました。監督交代を経て迎える勝負の後半戦に向け、「攻撃的な楽しいサッカーをできれば」と意気込みを語り、サイン色紙やサイン入りユニホームを市に贈りました。

ちとせ空港 百年物語 Vol.30 激震
自衛隊専用空港
右肩上がりの利用者数を受け、千歳空港は自衛隊との共用空港であることが問題視され始めていました。
従前より千歳市は、千歳空港を第1種空港(旧空港整備法が規定していた国際航空路線に必要な飛行場)に昇格させたいとの思いから政府への陳情活動を展開しており、その機運は昭和47年の冬季オリンピック札幌大会開催決定を受け、より一層強まっていました。
そんな中、昭和41年6月、自由民主党の川島正次郎副総裁が記者会見で次のように述べました。
「先日、佐藤首相と話し合い、千歳空港を国際空港に昇格させることに決定した」
7月4日には、視察のため来道した福田篤泰北海道開発庁長官が川島発言の支持を表明。千歳市は色めき立ちました。
「念願の国際空港化がよいよ実現する」
ところが福田長官は、7月8日の記者会見でその方針を白紙撤回すると、7月15日、国内空港を所管する中村寅太郎大臣とともに、次のように表明しました。
「千歳空港は自衛隊と共用であって、将来の国際空港として適当でないの」
で、千歳空港を自衛隊専用空港とし、札幌周辺に新しい国際空港をつくる。きたる22日、防衛庁長官を交えた三者会談でこの方針を正式決定し、閣議了解を得る」